

令和元年度 第1回 豊田市地域経営懇話会 会議録

【日 時】 令和元年9月6日(金) 午後2時～午後3時30分

【場 所】 豊田市役所南庁舎5階 南52会議室

【出席者】(委 員) 小野 修市 (豊田市区長会)  
尾原 洋子 (豊田市ファミリー・サービス・クラブ)  
斉藤 尚文 (中京大学現代社会学部教授)  
杉本 はるみ (豊田市ボランティア連絡協議会)  
田端 稔 (豊田商工会議所) «副会長»  
寺田 安孝 (あいち豊田農業協同組合)  
長岡 美穂 (TIAボランティア日本文化紹介グループ)  
西原 香保里 (元・愛知みずほ大学教授)  
花村 善照 (豊田市高齢者クラブ連合会)  
本庄 悠輔 (豊田市PTA連絡協議会)  
三島 利彦 (旭地域会議)  
湊 裕 (連合愛知豊田地域協議会)  
村野 政章 (公募委員)

(計13人)

【欠席者】(委 員) 胡桃沢 幸希 (学生によるまちづくりの会)  
坂元 貞仁 (豊田青年会議所)  
津村 美紀 (公募委員)  
村林 聖子 (愛知学泉大学現代マネジメント学部准教授)

【付議説明者】 加藤 達志 (企画政策部企画課 課長)  
森川 和加子 (企画政策部企画課 担当長)

【事務局】 辻 邦恵 (総務部副部長)  
塚田 良 (総務部行政改革推進課 課長)  
大平 直樹 (総務部行政改革推進課 担当長)

【次第】 1 開会  
2 副会長あいさつ  
3 新委員の紹介  
4 議事  
豊田市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略  
実績評価について【報告】  
5 会長選出  
6 閉会

---

(文責は事務局。訂正することがあります。)

【副会長あいさつ】

- ・不慣れではありますが、本日の進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いします。

【新委員の紹介】

- ・斉藤委員
- ・小野委員
- ・尾原委員
- ・本庄委員

【議事】豊田市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略実績評価  
について（報告）

○委員

- ・K P I（重要業績評価指標）の数値は、どのような考え方で設定されているのでしょうか。また、達成率が80%というのは、どういう状態を示しているのでしょうか。

○説明者

- ・個々の取組によって違いはありますが、基本的には現状値を基準として、例えば今が100であれば色々な取組によって将来的に120にしようというように設定をします。達成率が80%というのは、目標値に達成した状態を100%としたときに、その5分の4の状態だったということになります。

○委員

- ・人口の問題がよく取り上げられますが、豊田市の人口動態には、他の地域と異なる特徴があると思っています。
- ・豊田市では、東京や関西の大学へ進学する率が高いと思われませんが、そのままそこに生活拠点を移して戻ってこないケースもあれば、豊田市で就職をして戻って来ようと思っても、市内の企業に採用されず、刈谷市に住んでしまうケースもあります。一方で、豊田市は全国から移住してくる人もとても多いという実態があります。
- ・人口は、必ずしも多ければ多いほど良いというわけではないという考え方もあると思います。

○説明者

- ・豊田市は今のところ、2030年までに人口を現在の42万6千人から43万人まで増やしていこうとしています。全国的に人口は減っていくので、その後は維持の局面だと思っています。
- ・豊田市は、20代前半くらいでトヨタ自動車及びその関連企業に就職する方の転入が多い状況にあります。一方で、その方達が世帯を持ち、家を持つとする30代前半くらいの年代では、転出超過となっています。このことについては随分前から対策を考えている

ところでありますが、原因は様々で、一つには宅地が高いということが挙げられます。それから、名古屋に出やすい長久手・日進が便利だという考えも耳にします。そういったことによる人口流出にどうか歯止めをかけて、人口を増やしていきたいと思っています。

○委員

- ・高校生に目を向けると、豊田市は高校に通いづらい面があり、親は子どもが小さいうちに、その点で便利な名古屋に住居を構えようとしてしまいます。そういうことに歯止めをかける策をどんどん打ち出していかなければならないと思います。
- ・東京や大阪がどうだということではなく、豊田市としてどうするかと考えなければならぬと思います。

○説明者

- ・豊田市に魅力があれば、住んでくれる人は増えると考えられます。

○委員

- ・ホームページで総合戦略のことについて調べてみたのですが、膨大な量の人口統計資料を見る中で、近隣市に人口が流出している現実を目の当たりにしました。そして、岡崎の計画との比較もしてみたのですが、豊田市は企業、働きやすさということが前面に出ている印象で、一方の岡崎は、いかにして人が住みやすくしていくかと考えている印象を受けました。豊田市には自動車産業があり、それが前面に出ることはわかりますが、もう少し住みやすさというのを考えた方が良いのではと思いました。
- ・市外に住んでいる娘が、豊田の農地に家を建てて戻ってこようとしているのですが、家を建てるのにもものすごく苦勞をしたとのことで、これではみんな豊田に住みたがらないよと言っていました。
- ・豊田市にも、いろいろな面でもっとあたたかさがあるといいと思います。
- ・総合戦略掲載事業の「産業用地整備事業」のところに、「産業立地ポテンシャルの高い地域において新たな産業用地を整備する」とあり、南部地域において農業用地の産業用地化がさらに進んでいくことを危惧しています。
- ・同じく「都心環境計画推進事業」の中に、「都心地区サイン整備工事」というのがありますが、これは駐車場の空き状況を知らせる赤と緑のサインのことを指しているのでしょうか。視覚障がいがある方は緑が見えないそうなので、そういう方への配慮が必要だと思います。点字ブロックの配置等もそうで、豊田市はユニバーサルデザインというのをもう少し考えた方が良くと思います。
- ・同じく「地域自治システムの更なる発展」の中に、「わくわく事業への参加者が固定化する傾向」というのがありますが、これは確かにそうで、当該事業のより良い発展のことを考えた是正を図らなければならぬと思います。

- ・西三河のボランティア連絡協議会で、防災に関して横のつながりを広げるべきとの話題が挙がっています。市内での防災の担い手育成ということが資料にありますが、周辺との連携のことも考える必要があると思います。

○説明者

- ・産業用地の件については、無秩序に点で整備するのではなく、道路を含めて面的に整備して企業を誘致するという進め方で、市としてエリアを定めて行っています。南部地域において産業用地の整備を行ってはいますが、基本的には農業用地を集積するエリアという考え方に変わりはありません。
- ・駐車場のサインのことについては、所管課に確認をします。
- ・防災の広域化については、西三河で広域的な連携をしています。

○委員

- ・世界で日本のものづくりが評価されていて、日本の中でも愛知県のものづくりが評価されています。愛知県においてものづくりという言葉はとても重要ですが、愛知県のものづくりというと、どうしても一つの大企業の話になってしまっています。その状態が正しいのでしょうか。

○説明者

- ・世界に名だたる大企業が豊田市内に存在するのは事実としてあって、市の発展の基礎になっているとは思いますが、行政としてすべき支援というのは、むしろ新技術活用に関して中小企業に関わっていくことで産業を発展させていくことや、自動車関連企業にとらわれずに将来の発展が見込まれる企業の誘致を進めていくといったことだと考えています。

○委員

- ・それをもっと強調するべきであり、世界にアピールできるような産業を育成していかなければならないと思います。

○委員

- ・地域づくりの点で、地域の活動に参加している人の割合が実績50%で「おおむね達成」となっていますが、例えば環境美化活動等で半分の人しか参加しない状況では、それでいいのかと思えてしまいます。
- ・最近市長が、自助・共助・公助・「近助」という言葉を使うのを耳にします。これは、「近助」に全てお任せという意味なのか、「近助」の価値を高めていくための、市としての施策があるものなのか、お聞きしたいです。

○説明者

- ・市としての基本的なスタンスは、自助・共助・公助でやっていくということだと認識しています。

○委員

- ・豊田市内には9つのインターチェンジがあり、大体どこでも30分も走れば高速道路に乗れます。そのことをもっと生かして、業態にとらわれない企業誘致を考えることが必要なのではないかと思います。

○委員

- ・地方創生を日本全国というレベルで考えると、なかなか難しいと以前から言われています。そして、豊田市は日本の縮図だとよく言われています。そのことを踏まえてなのですが、資料中に「担い手への農地利用集積が進んだ」とあり、目標達成との評価になっています。しかしながら、集積できるところはあるものの、一方で放置されるところもあります。中山間地に関して言えば、集積できるところなどほとんどありません。それを「達成」で片づけられてしまうと、現実を知らない人が見たら全域で集積できたように見えてしまいますし、実は産業用地になっていましたということになると、それはいかがなものかと感じます。
- ・また、市街化調整区域における運用指針を柔軟に見直しするという点についても、やはり中山間地等では依然として柔軟性がなくガチガチに縛られているといったことがあり、これもまた「できるところだけ」、「いいところだけ」。それを「達成」ということには疑問を感じます。

○説明者

- ・一つの指標としてベターなものを挙げたということで、同じ豊田市の中でも地域ごとに課題が全く異なっていることは認識しております。できることとできないことがある中で、できることをしっかりとやっていきたいと思えます。

○委員

- ・豊田市の南部にはお米を作っている大きな法人もあり、そこでサラリーマン的に働いている若い方もいるのですから、農地は農地で残すことも大切で、バランスよく開発を進めてほしいと思えます。

○委員

- ・農業の担い手の数はどうなっているのでしょうか。国の施策はあまり芳しくない中で、豊田流で多様な産業が成り立つような施策を進めていただくと良いと思えます。

○委員

- ・資料中に「特色ある学校づくり推進事業」とありますが、この内容についてあまり実感はありません。

○委員

- ・資料中に「若者の出会いの場の提供」とありますが、出会いのイベント参加満足度をKPIとしているところに違和感を覚えます。子どもを生み育てるということの前段に対して、行政がやるべきことをもっと頑張してほしいと思えます。

○説明者

- ・場を提供することに重きを置いて事業を行っており、その場で出会いが成立したかどうかというモニタリングまではできない事情がありますので、後日参加者へのアンケートを行って、満足度を確認するということになっています。本当は、何組成立したかというところが重要であることは理解しています。

○委員

- ・指標の設定の方法が施策ごとでまちまちなので、達成度の評価に疑問を感じてしまいます。

○委員

- ・場所を提供する事業を予定どおり行ったか、予定どおりの人数が集まったかという指標・評価で良いのではないのでしょうか。

○説明者

- ・何回やったかという評価と、それによってどれだけの参加者が満足したかという評価があつて、ここでは回数ではなく満足度の方を指標として設定しています。

○委員

- ・これまでの議論をお聞きしていて、評価方法について議論するのか、評価の対象となっている事業の内容について議論するのかということ整理して考えた方が、議論の方向性が拡散せず、生産的なように感じました。

○委員

- ・目標値の設定の方法で、頑張っても母数が増えると率が下がり、評価が下がってしまうような項目があったため、再検討が必要ではないかと思いました。
- ・I o T、5 G等の話題が先日の市議会でも挙がっていましたが、個人的には5 Gをどう活用していくかが重要で、特に遠隔医療等は市民のためになるのではないかと思いますので、そうした施策を検討していただければと思います。

【会長選出】

○事務局

- ・委員の皆様の互選によって、新しい会長の選出をお願いしたいと思います。会長をお勤めいただける方の立候補、又はご推薦はございませんでしょうか。

○副会長

- ・ご推薦等ないようでしたら、これまでのご経験と幅広いご見識から、西原先生が最適ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

(拍手)

○事務局

・西原委員、お引き受けいただけますでしょうか。

○西原委員

・皆様方のご協力、よろしくお願いいたします。

○事務局

・ありがとうございました。それでは、本年度第1回地域経営懇話会は、これにて終了といたします。